

年末のごあいさつと発行予定のお知らせ

本年もありがとうございました。  
ご愛顧・ご愛読に感謝いたします。

本年の新建築ハウジングタブロイド版(新聞)の発行は、今号で最後となります。

住まいは、家族がやすらぎ、安定した生活をしていくうえで、必要不可欠です。思えば、住まいは常に人にうまいおいを与え、生きること喜びをもたらすものでした。激動する社会のなか、数多の変遷を経てきた日本の住まいは、いままた、大きな変化の波にさらされています。

私たちはこれから、どんな住まいを選ぶのでしょうか。過去から現在まで、理想を追求しながら成し遂げられなかった課題も多く残っています。3・11を経たいま、住宅の技術環境や産業構造、政治行政システムを省みて、もう一度住まいの根本を問い直すことが求められているように思います。

2013年も、新建築ハウジングは読者の皆様のナビゲーターとして貢献できるよう、よりよい紙面づくりに一層努力していきます。ご期待いただき、ご支援いただきたく存じます。

本年もご愛顧・ご愛読ありがとうございました。2013年もどうぞよろしくお願ひいたします。タブロイド版(新聞)の本年最後の発刊にあたり、一足早いです。年末のごあいさつとさせていただきます。

(新建築ハウジングスタッフ一同  
代表して編集長・竹内美樹)

12月30日号

「住宅産業大予測2013」発刊

※タブロイド版(新聞)はお休みさせていただきます  
※プラスワンもお休み(住宅産業大予測に振り替え)させていただきます

1月10日号

タブロイド版・新春特集号

・地域応援企画第1弾「地域型ビジネスが国を盛り上げる」  
・地域応援企画第2弾「地域力エネルギーの時代」

タブロイド版・通常号

1月20日号

タブロイド版・通常号

・新春特集号に引き続き、読者アンケートの結果をご紹介します

1月30日号

タブロイド版・通常号

プラスワン2月号

通常どおり発行いたします



「JIA建築家大会2012」内で開催された「木材サミット」の様子(11月29日、神奈川県横浜市)



JIA建築家大会「木材サミット」

「木材サミット」では建築ジャーナリストの中谷正人さん、化のため民間採用で今年3月まで神奈川県・長野県に、地元自伐林業家・県職員をつとめた河合博

野産カラマツを使った耐力壁や外壁・屋根材の開発について報告。なかでも木製サッシは、信州ヒノキ材で世界トップク

材会社を通して長さ8mの高級材を納入したところ、その製材会社から「在庫したい」と依頼があったと報告。「いま流通している国産材はB材、C材ばかりで、輸入材と同じ土俵

点に立ち、デザインがよく、住み心地がよく、木の香りがして帰るのが楽しい。しみになる家をどうやって国産材で実現するか、冷静に考えて政策をつくら

谷さんは「現在国内にある木材蓄積47億mのうちのほとんどは40〜50年生。間伐をして林業を動かしながらいかに70年生、80年生に育てていくかが課題。その解決は川下の建築者の意識がなければ成り立たない。林業者、行政、建築士が一堂に介して議論する重要性はさらに高まる」と締め

まだ見える!国産材の可能性  
壁・屋根・窓ツブバイフォー材  
一般社団法人日本建築家協会(JIA)が主催する「JIA建築家大会2012」が11月29日〜12月1日の3日間、横浜市で開催された。イベント内の企画の一つ「木材サミット」では、川上・川下の実務者が集まり、国産材活用の未来について熱心な議論があった。

ラスのU値0.88の高性能を実現したと発表し「手間と知恵と元気をいせ、まだいろんな可能性がある」とした。

同じく建築士の山口さんはツブバイフォー工法での国産材利用について「1975年に日本でオープン化されて以降、ほぼ100%輸入材だった」と紹介。が、来年度のJAS法改正でツブバイフォー材に国産材利用の道が開ければ、より耐久性の高い建築が生まれると期待を示した。

自伐林業家の杉山さんは、施主の要望で地元製材材を確保したいという。もともとユーザーの視

河合さんも「神奈川県産材をツブバイフォー材に利用できれば、需要底上げが期待できる。柱の乾燥は難しいが、板材の乾燥ならコストダウンでき、種類が少ないので在庫ももてる」とした。

日本の屋根を守りたい...  
**屋根 x モーグル**  
透湿性 No.1  
ルーフスパーサー誕生  
詳しくはwebで  
日本住環境株式会社

アイジー工業  
光で立体感増す  
金属サイディング  
外装材メーカーのアイジー工業(山形県東根市、服部達夫社長)は、立体的な意匠を実現する「ヒカリス」を、ツートン塗装を施すことでブロック

セミナー・イベント・新製品情報...  
全国の住宅会社様にお伝えできます。  
FAXで 全国42,000社  
ダイレクトメールで 全国60,500社  
お問い合わせは  
お電話 026-234-1200  
メール info@shinken-data.jp